

手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年6月17日（水）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

校長先生 からの 宿題より

様々な想い・願いが伝わってきました！

『校長先生からの宿題』…臨時休業中に感じたことや考えたこと、自分のこれからのことなど、生徒のみんなの様々な想いや願いが伝わってきました。読み応えがありました。今回は、『校長先生からの宿題』から、いくつかを紹介します。

■ 私がこの臨時休業中に感じたことは、「あたりまえの毎日のありがたみ」です。この臨時休業中、今まで普通の日々、いつも通りの生活を送れたことのすばらしさを実感しました。そして、学校に来てみると、学校に通うことの大切さにも気づくことができました。学校で先生の分かりやすい楽しい授業を受けることができること、美味しい給食を食べれること、友達と何気ない会話で笑い合えること、クラスのみんなで歌を歌えることなど、今まで気にもとめなかったあたりまえの一つ一つが大切であることに気づきました。テレビや新聞でも暗いニュースばかりですが、こんな時だからこそ気づくことができたのだと思います。そして、こんな時でも暗いことばかりではなく、自分の努力しだいで、新たな発見があることに驚きました。これからは、今まであたりまえの毎日を送れたことに感謝しながら、いつも通りの毎日のその一日一日を大切にしたいと思います。また、こんな時だからこそ、気づける発見などを探しながら、あまりネガティブにならずに明るくいたいです。そして、いつも通りの生活に早く戻ってほしいです。（1年女子）



3密を回避した授業



■ 小学校の頃から休業で「コロナなんて…」と思っていました。残り少ない小学校生活がコロナでつぶされて変な感じでした。ただいろいろな情報を見聞きしている中で、いろんな人が困っているいろんな人がいろんな人と手をとり合っていると感じました。楽しくするためにいろんな方法をメディアで取りあげたり、コロナ対策のために医療の人達やマスクをよりよく改良する人達が最前線で働いてくれて、一丸となってみんなが頑張っていることがすごいいと感じました。また、休業中にもたくさんのメディアや周りの人達が工夫していく中で、私も少しずつ工夫して生活することができました。衣替えした時の小さくなったワンピースを使ってやってみたいと思っていた人形の洋服を作ったり、やろうと思ってやれなかったゲームや絵を描いたり、習字を習っているので練習したり、友達に会えないので文通しようとかみんなの手紙のやりとりをしたり、とても充実した生活を過ごしていました。なので、小学校時代チャレンジ精神がなかった私が、自粛生活を通して今ではイラストコンテストに応募したり、難しい文章題にチャレンジしたり、物語を書いてみようかなと思ったりしています。ただ、そうした変化があった中で、買い物などの時、マスクをつけていない人を見ると、どうなのかな？と思います。お互いコロナに注意をはらって、マナーを守りながら生活していけばいいのになと思います。最後にやっぱり一番は、はやく今年一年くらいでコロナがおさまってくれればいいなと思います。年を越し、来年も不安な気持ちでいたくないし、今年いところが生まれるので、安心して生まれてきてほしいと思うのです。だから私はこれからもコロナに気をつけて健康に過ごしていきたいです。（1年女子）

動き始めた委員会活動



■ 僕は休業中に「退屈」と「焦り」を覚えました。最初は、正直に言うとても嬉しく幸福な気持ちでしたが、一週間が経つ頃には、もう退屈で退屈で…そして、ふと学校のことを考えると、焦りを覚えました。理由は授業の遅れです。受験に影響が出てしまうのか…、授業がハイペースになり理解が追いつかないのではないかなど、他にもありますが、どれも将来のことです。そう考えると、この休業は、「自分の生活を見直すもの」だったのではないかと思います。だから、自分はこのことをふまえ、正しく生活していこうと思います。（2年男子）

■ 私は、この新型コロナウイルスを甘く見ていた。今、世界中で騒がれている「コロナ」。現在はたくさんの感染者、死者が出ている。拡大当初、私は「すぐ終わるだろう。」「大丈夫だ。」「福島県まで拡大するはずない。」そんな甘い気持ちでいた。しかし、一日一日と日が続つにつれ、感染者は増え続け、福島県まで感染者は出始めていた。医療関係では、防護服や人工呼吸器が足りなかったり、他の国では、ある感染者がもう助かる見込みはないとされると、人工呼吸器を取り外し他の感染者に回さなければならないというように医療が行き届かず、亡くなってしまう方も多い。日に日に増えていく感染者。行き届かない医療。これにより、たくさんの方が亡くなっている。大切な人を失った家族や友人、救いきれなかった医療関係者。どれほどいるだろう。命というものはこんなにも呆気ない。こんな簡単に命を落としてしまうと考えると、こわくて仕方がない。コロナを甘く見ていた自分が憎く感じる。だから、私にできることは何か。まず、意識をもって行動・生活すること。また、見聞きした噂やデマを簡単に信じない。そして、コロナを甘く見ないこと。これらを意識する必要があると思う。もし、自分の意識が緩くなってきたら、まず命の尊さを考えよう。決して「死」を甘く見てはならないということを考えよう。コロナに終止符を打ちたいなら、全ては自分の意識にあるのだと。(2年女子)

2年技術 栽培の授業



■ 私は、休業中当たり前の生活がなくなったなと思いました。1月から今までコロナが続いていますが、私は1ヶ月、2ヶ月くらいでコロナはなくなると思っていたので、「修学旅行の準備をしようかな。」とか考えていましたが、修学旅行にも行けなく、中体連までも中止になってしまい残念に思っています。2年生も中途半端で終わり、3年生になったと思えば、2週間登校しただけで臨時休業。友達にも会えず、3年生なのに「勉強頑張るぞ」という気持ちにもあまりなれず、複雑な気持ちでいっぱいでした。分散登校中「本当だったら全員クラスにいて、午後まで勉強して、中体連もうすぐだから部活頑張ろう」とか、分散登校が休みの日は「今日本当だったら何の勉強してるんだろう」など、普段だったら考えないことを考えていました。お店に行けば、どこもかしこもフェイスシールドをして、足元には約1m間隔空きのラインが引かれ、密を避けて並び、マスクをみんな着用していて、いつもだったら見られない光景がやまほどあります。このように当たり前の生活がなくなって、初めての生活ばかりです。目標にしていた中体連、去年先輩達が行けなかった県大会もなくなり、楽しみにしていた修学旅行もどうなるか分からず、3年生にとっては本当に最悪な年ですが、これもひとつの経験と考えると、他の人には経験できない特別な思い出だと思います。今後もこのようなことになっても大丈夫なように、体力はつけておこうと思いました。(3年女子)

■ 見て見ぬ振りのできないニュースが幾度となく視界に入ってきます。現実を受け止めて考えることは、心にとっても負荷がかかるけれど、考えることを放棄することほど残酷なことはないと思います。向き合って欲しい人がいて、心の叫びを聞いてほしい人が沢山いると思います。大切なことから目をそらしてしまわぬよう世界中の問題に目を凝らします。自分たちが持てる最大限の優しさを、できる限りの思いやりを尽くすためにも冷静にいきたいです。自分がどう感じるか、なぜそう感じるのか、誰かに影響されていないか、本当に自分の意見なのか、何度も何度も考えて、納得のいく答えを探していきたいです。(3年男子)

朝の体力向上トレーニング



■ 5週間の臨時休業は、街が静まりかえり車通りは少なく静寂な時が流れていました。僕はその時いろいろな感情が混じり合って、もう何をしていいのか分からなくなってしまいました。将来のこと、学校のこと、家族のこと、沢山のことが心配になり、自分の方向性を見失ってしまいました。臨時休業中、僕がとても気にしていたことは、将来のことです。学校に通えず二年生の学習内容が終わりきっていないというのに、また休みになってしまいました。この先の授業はどうなるのか、僕は行きたい高校に行けるのかとても不安になりました。そして、家で勉強をしようと思っても手につかない時があり、何をしたいのか分からなくなってしまいました。このままではダメだとあせる気持ちもありました。さらにあせればあせるほど学習の内容が理解しにくくなってしまいました。しかし、僕は気付きました。悩んでいるのは僕だけではないと。地球に住んでいる全ての人々が戦っていることを。そう考えたら、少し勇気がわいてきました。世界は少しずつ光のさす方へ向かっている。そう信じて、一日一日をのりこえてきました。重い荷物を一人でもったなら重いかもしれません。しかし、沢山の人もったなら軽く感じます。自分は一人ではないことに気付いたのです。だから、僕は臨時休業をのりきることができました。(3年男子)